

## 北海道胆振東部地震 に関する社会貢献委員会 活動概要

(平成 30 年 10 月 31 日 現在)

### 2018.9.6 北海道胆振東部地震

災害時対応フローに基づき、今後の活動概要の確認

9.28 激甚災害指定（閣議決定）

10.1 北海道・東北地区長に対し、メールにて被災状況調査を開始（対象：19 会員校）

10.31 19 会員校のうち 14 校より報告あり（返信率 73.7%）。

#### <結果の概要>

19 会員校のうち 14 校より回答あり。その中で実習の中止や変更を要した会員校が 4 校。現在はこれらの対応は終了している様子であったため、支援等は行っていない。その他、被災後数日間にわたる停電時の学生の安否確認に関する意見や授業中止の判断および学生の反応に関する意見については 4 校から出された。加えて東日本大震災の経験をふまえ、被災後早期の外部からの問い合わせ対応に苦慮したことに関する意見も出された。

#### 1. 実習の中止や変更が必要となった会員校：4 校

- ・院 2 年次生 1 名が釧路で 2 週間の管理実習中に宿泊施設（看護師寮）が停電・断水。交通機関もストップしたため 1 日早く実習終了へ。
- ・地震の影響で外来が休診となったため、継続事例の妊婦健康診査日に変更。その後の日程調整に苦慮したが、それ以外は影響はなし。
- ・1 日実習中止（学生は自宅学習）、翌週の市外（名寄市）分娩介助実習の中止（学生全員市内の実習に配置変更）
- ・継続事例実習の学生の受け持ち日数が少なくなったこと、また分娩介助実習ができなかったため事例数確保に影響があった。

#### 2. 被災当日の様子や停電時の学生の安否確認や授業中止の判断、学生の反応などに関する意見：4 校

- ・専任教員による集中講義期間中であったため柔軟に対応できた。ブラックアウトの影響もあり大学のサーバーが機能せず、安否確認システムがスムーズでなかった部分があった。実際には大学のシステムではなく、ゼミ単位、学科目単位で学生との連絡は、比較的速やかにとれていた。
- ・今回のように「ブラックアウト」の状況下において、メールや電話を使つての学生や教員の安否確認の大変さを、身をもって実感した。
- ・旭川市内がブラックアウトとなり、本学も停電のため、大学全体が休学となった。しかし、その決定に 1 時間を要したことが、大学の反省として挙げられている。
- ・函館や札幌出身の学生は、地元の停電への心配や家族の携帯電話の充電がなくなりそうで連絡がとれなくなるかもしれないと不安そうにしていました。その為、夜間眠れずに講義に集中できない学生がおりました。

#### 3. 被災早期の学部からの問い合わせ対応に関する意見：1 校

- ・今回の北海道胆振東部地震についてはではないが、東日本大震災の経験から震災後は連日、多くの方から安否の問い合

わせや励ましのメッセージを沢山いただいた時、震災後の復旧に追われている中においては対応しきれず、困った（特に震災後1週間）。このような時に、各種団体を通して安否情報を一括で全国に発信し、被災状況を確認してもらえるシステムがあるとスムーズに情報提供ができるのではないかと思った。